

田中プロジェクトの今後の取扱いについて

平成 24 年 9 月 6 日
最先端研究開発支援推進会議

1. 経緯と総合科学技術会議としての対応

FIRST 田中プロジェクトについては、共同提案者の 1 人であり、サブテーマ 2 及び 3 のリーダーであった辻本豪三元京都大学教授が、7 月 31 日に研究費の不正経理に係る収賄容疑で東京地検に逮捕される事態が発生。

これを受け、補助事業者である京都大学が、FIRST に係る経費の執行状況を調査するとともに、プロジェクトの責任者である田中耕一中心研究者（島津製作所）が、研究支援担当機関である科学技術振興機構及び共同研究機関としての京都大学と、今後のプロジェクトの対応について、協議しているところ。本件は、田中プロジェクトの研究推進・実施体制の根幹に関わることであり、プロジェクトの所期の目標達成を大きく左右する事柄であることから、FIRST の進行管理に責任を有する総合科学技術会議（最先端研究開発支援推進会議）として、本プロジェクトの今後の取扱いについて、判断していく必要がある。

2. 田中プロジェクトの今後の取扱いに係る判断と中間評価との関係

現在、FIRST の 30 課題については、中間評価のプロセスに入っており、評価結果の決定を 12 月に予定している。一方で、本プロジェクトの今後の取扱いの判断については、①当初想定されていなかった不測の事態への対応についての判断となること、②可能な限り速やかに結論を出していくことが求められることから、本プロジェクトの今後の取扱いに係る判断については、中間評価とは別に、先行して行う必要がある。

なお、本プロジェクトについては、上記により今後の取扱いに係る判断を行った後に、他のプロジェクトと同様に、中間評価を行っていく。

3. 田中プロジェクトの今後の取扱いに係る判断の進め方

田中プロジェクトの今後の取扱いに関しては、外部有識者（機器システム領域）の参画・協力を得た上で、最先端研究開発支援プログラム推進チーム（有識者議員で構成）の検討を経て、最先端研究開発支援推進会議（政務三役＋有識者議員で構成）で最終的に判断する。

上記判断を行うに当たっては、京都大学における助成金の執行管理の適切性について、助成金の執行機関である独立行政法人日本学術振興会及びその主務官庁である文部科学省の協力を得て必要な確認を行う。

4. ヒアリングスケジュール（予定）

9月12日（水） 最先端研究開発支援プログラム推進チーム

- ・田中中心研究者及び補助事業者（科学技術振興機構、京都大学、島津製作所）から今後のプロジェクト構想のヒアリング①

9月26日（水） 最先端研究開発支援プログラム推進チーム

- ・田中中心研究者及び補助事業者（科学技術振興機構、京都大学、島津製作所）から今後のプロジェクト構想のヒアリング②
- ・京都大学から経費の執行状況に係る調査結果報告のヒアリング

10月上旬 最先端研究開発支援プログラム推進チーム

- ・田中プロジェクトの取扱いに関する判断案のとりまとめ

～10月中旬 最先端研究開発支援推進会議

- ・判断の決定